

学長のコラム

後期の授業開始に向けての本学のウィズ・コロナ戦略

後期の授業開始を控え、教務委員会とFD委員会を中心に、前期の遠隔授業についての検証をお願いした。その内容は9月14日のFDセミナーでご報告いただいたが、遠隔授業に関する学生アンケートでは、“同時方向性授業”と“音声・動画付オンデマンド型授業”において、不満（とても不満+やや不満）の割合がそれぞれ17.2%と9.1%であったのに対し、“資料配布のみのオンデマンド型”では32.5%とほぼ1/3の学生が不満を持っている事が明らかとなった。また、面白いことに“同時方向性授業”よりも“音声・動画付オンデマンド型授業”の方が、不満度が低いのも一つの特徴と思われた。その理由として、“音声・動画付オンデマンド型授業”では「時間を選ばず、自身のペースで学習が出来る」、「何度でも見直すことが出来る」、「ネット接続が悪くても、時間帯を選んで見る事が出来る」などの意見があった。

この検証結果を踏まえ、後期の授業に際しては、大きく以下の二点について改善を加えることにした。まず、遠隔授業への不満解消策として、新しいクラウド型授業支援システムであるmanaba（朝日ネット）の導入を決定した。すでに使用説明会を開催して、殆どの教員の皆さんにはご理解いただいたと思うが、音声・動画付の資料を前期の10倍の容量である50Mバイト/ファイルまでのアップロードが可能となり、ファイル数にも制限がなくなった。レポートや小テストの出題・提出操作が簡便となり、時間を区切った小テストの実施や自動採点なども可能となった。掲示板を利用して、教員と学生間、あるいは学生同士でのやりとりが出来るなど、利便性が大きく向上している。前期の解析から、遠隔授業の利点も分かってきたので、来年度以降の利用も念頭に、教員の皆さんには大いにmanabaを活用していただきたい。

ウィズ・コロナ戦略の2つ目の柱は、前回の学長コラムにも記述したが、全学生・教職員を対象とした新型コロナウイルスのPCR検査体制の導入である。8月末の助産別科の実習生を皮切りに、実習前の学生を対象にPCR検査を実施しており、多くの学外実習施設から好感を得ている。PCR検査陰性を学生受入れの条件にしている施設もあり、陰性証明を行うことで学外実習がスムーズに実施できるものと期待している。さらに、後期の授業開始に合わせて、順次、各学科・学年単位でPCR検査を実施予定である。従来の感染防止対策に加えて、新型コロナウイルスの陰性証明を行うことで、対面授業の割合を増やすことができると考えている。是非、学生・教職員一丸となって、クリーンな学修環境の構築を目指したいと思う。



RRK 熊本放送の夕方 Live「ゲツキン！」で本学のPCR検査が紹介 (9/15)

9月・10月・11月の主な行事予定

9/28 (月)	レストランオープンセレモニー
10/1 (木)	辞令交付式
10/21 (水)	動物慰霊祭
10/23 (金)	品質保証・精度管理学共同研究講座記念講演会
10/25 (日)	学部入試 (総合型選抜)
10/30 (金)	医学検査学科 臨地実習認定式
11/7 (土)	学部リハ特別選抜 (社会人)、助産別科推薦入試、大学院推薦選抜・社会人選抜 (I期) 入試
11/17 (火)	認証評価実地調査 (~11/18)
11/21 (土)	学部入試 (学校推薦型選抜) [指定校]・[公募]

世界禁煙デー 禁煙週間イベント「禁煙川柳大会」

今年も世界禁煙デー (5月31日) に合わせて、禁煙川柳大会を開催しました。3賞の他に、学生ノミネート作品10句をAAAにてアンケート集計をして、一般学生による投票形式で入賞作品を決定しました。今年はコロナ禍であるため学生ノミネート作品の表彰式はできず残念でしたが、このコロナ禍ならではの句が多かったように感じます。今後も引き続き、大学をあげて禁煙について取り組んでいきたいと思っております。

(文責：学務課)



学長賞

ヤニ色の 歯を見て萎える マスク美人 (エミリア)

学生委員長賞

火をつける あなたに向けた お線香 (高麗人参)

事務局長賞

大切な 命を削るな その欲で (ミトコンドリア)

学生投票

第一位 キツエンも 一本外せば キンエンに (ユニ子)

第一位 ヤニ色の 歯を見て萎える マスク美人 (エミリア)

第三位 タバコの火 灯(とも)して削る 命の灯(ひ) (BRJ)

熊本市災害ボランティアセンターに関する協定締結式

本学は、大規模災害時の支援拠点となる災害ボランティアセンターを各区に計5か所開設する熊本市の方針を受けて、令和2年4月より北区の設置場所として2号館ピロティと第4駐車場を提供することとしました。

協定締結式は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期されましたが、8月24日に大西熊本市長、潮谷熊本市社会福祉協議会長、竹屋学長をはじめ、関係者の出席より開催され、その様子は、テレビや新聞等にも取り上げられました。

地域に根差し、地域に開かれた大学を本学は目指していますが、今回の協定締結もその一環です。今後も、本学の特色を生かした社会貢献につつまして、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

(文責：総務課長 平緒泰弘)



第1回FDセミナー「第三期認証評価のねらいと概要」

令和2年8月26日(水)に令和2年度第1回FDセミナーを開催した。「認証評価制度のねらいと概要ー第3期認証評価を中心にー」のタイトルで、公益財団法人日本高等教育評価機構 事務局長の伊藤敏弘様にご講演を頂いた。当初この講演会は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大にて2度延期し、今回のZoomによる開催となった。

講演の中でも説明がなされたが、認証評価制度は事後チェックの重要性、accreditationの導入、国際競争力強化・国際通用性確保、教育制度改革などの社会的要請から導入されている。大学は評価を受けて学部、学科、研究科等と大学全体の「PDCAサイクルの仕組みの確立と質保証の仕組みが機能しているか」が問われる。また、第三期認証評価から重点評価項目として「基準6 内部質保証」が設けられている。内部質保証とは要約すると、「自らの責任で自己点検・評価を行い、その結果をもとに自己改善し、大学運営全般の質を保証する」とされている。

ご存じのように、2か月後の11月17~18日に本学の認証評価が予定されている。ご自身の担当部分を把握するのは勿論の事、今回の伊藤様がFDセミナーで講演された内容を11月の認証評価に活かして頂ければ幸いです。

お忙しい中、Zoom講演及び録画視聴・問題解答(45名)に参加して頂いた教職員の皆様に厚くお礼申し上げます。有難うございました。

(文責：FD委員長)



大学機関別認証評価“実地調査”に向けて

認証評価の実地調査(11月17日~18日)が近づいてきました。今回はコロナ禍の影響を受けて、Web会議システムによる実地調査になります。先日開催されたFDセミナーの後に、教職員の皆さま方へ以下の5つのお願いをさせていただきましたので、皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。

- ①「認証評価」は大学にとっての最重要事項の一つであり、教職員一人一人の準備が重要であること
- ②「自己点検・評価報告書」の関連基準項目について熟読し、現状・課題・本学の強み等について把握して欲しいこと
- ③ 10月上旬に送られてくる「書面質問」への対応
- ④ 実地調査に向けた「基準ごとの勉強会」への参加
- ⑤「実地調査」の当日は、基本的に全教職員が大学内に待機(一部学外実習等を除く)すること

(文責：事務局長 河瀬晴夫)

新レストラン前の植樹

9月10日(木)に新レストラン前の植樹を行いました。植えられたのは、正面から見て、前列の4本がサザンカで、後列の3本がシマトネリコです。ご覧ください。

(文責：企画・人事課)



新レストラン竣工式

9月17日(木)「学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 新レストラン竣工式」の神事が執り行われました。(撮影：企画・人事課)



私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科生活機能療法学専攻の小手川 耕平助教に投稿していただきました。

今から約6年前、当時、作業療法士の免許をとって4年目だった私はリハビリテーションにおける一つの手技にハマって勉強しており、その手技を研究している病院があるイタリアで勉学の機会を得ました。

とはいえ、イタリア滞在は10日程度で、そのうち半分は観光が目的でした。ミラノでサッカーを観戦し、ヴェネツィアで美術館を巡りひと通り楽しんだあと、一番の目的?である研修先の病院へ。

計5日間ほどの研修で感じたことは、技術や内容の質の高さはもちろん、リハビリ対象者に対して真剣に向き合うセラピストの姿でした(彼らは休日も集まってリハビリについて語り合っている)。臨床を数年経験し、ここに来るまで手技について詳しくなっていたと思い込んでいた私は、圧倒的な敗北感とともに、さらに研鑽(研究)する必要があることを思い知らされる良い機会となりました。

あれから6年、少しは彼らに近づけたのだろうかと思う今日この頃です。

Webオープンキャンパス(個別相談会)、Webチャレンジ熊保大(推薦選抜対策講座)

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWebによるオープンキャンパスとなりましたが、その一環として7/26、8/16の2日間、Webによる個別相談会を開催しました。学科・専攻、別科の先生方を中心とした学科別相談の他、奨学金・アパート等の相談、在学生との交流(ピア・サポーター)を、Zoomを使用して実施しました。画面越しではありますが、直接顔を見ながらの相談となり、少しでも大学の雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。

また、チャレンジ熊保大(推薦選抜対策講座)も今回はWebで実施。壺溪塾の先生方にご協力をいただきオンデマンド形式の講座としました。こちらにも多くのお申込みをいただき受講いただいております。

ご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

(文責：入試・広報課)



本学での新型コロナPCR検査体制について

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック宣言以来、世界各国で様々な対策が講じられてきましたが、その収束には程遠い状況が続いています。そこで本学では、熊本市医師会PCR検査センターの立ち上げに協力した実績を活かして、学内に新型コロナウイルスに対するPCR検査体制を確立し、学生・教職員に検査を実施することで、コロナ感染リスクの低減をはかり、安心・安全な教育環境の再構築を目指すこととしました。

検査は国立感染症研究所の示すマニュアルに従い実施し、試薬は国内自治体検査機関に導入実績のあるものを用いて検査を行っています。現在(9月18日現在)、約400件の検査を行いました。早期に全学科・教職員の検査完了を目指しています。

教職員の皆様におかれましては学生への周知・準備や検体採取時のフォローなど、多岐へのご協力誠にありがとうございます。至らない点も多々あるかと存じますが、ご理解とご協力の継続を何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：医学検査学科 山本隆敏)

